

東京湾沿岸（燈明堂周辺）で見られる生き物

4 燈明堂周辺

自然環境の特徴

燈明堂は、東京湾を一望できることから、江戸時代から明治時代初期まで約 220 年間、浦賀港における灯台の役目を果たしていましたが、現在は、当時のままに残された石垣の上に建物が復元されています。燈明堂周辺には、多くの自然海岸が残されており、砂浜と海の色が美しく、景観も楽しめます。

植物

植栽された樹木が多いですが、岩上には海岸植物が見られます。春にはハマダイコン・ハマヒルガオの群生を見ることができます。

アシタバ



トベラ



ハマゼリ



マルバシャリンバイ



昆虫

比較的小さな砂浜に、ハマベハサミムシが見られます。（一方、久里浜港で見られたスナゴミムシダマシの一種はあまり見られません。）

ハマベハサミムシ



ハネカクシの一種



水生生物

水生生物は砂浜よりも岩礁部で多く見られ、岩かげではアラレタマキビ、イワフジツボ、カメノテなどの付着生物が見られます。

アラレタマキビ



イワフジツボ



ウノアシ



カメノテ



コモレビコガモガイ

